



困難もまた

「先生、ラッキーっていわれました！」そう言って私の所に女子生徒がやってきました。ずっと前のことになります。当時、部活の地区大会では、個人のトーナメント表は当日発表でした。トーナメント表の前に選手が集まって、自分の対戦相手や試合順などを確認します。その時、他の学校の選手が話している言葉が耳に入ったようです。相手が近くにいることに気づかなかったのだと思いますが、自分の対戦相手を見て「〇〇中だ、ラッキー」と友達と話していた言葉でした。「わたしはくやしいです！！」と続きました。

日本の古典芸能である能を今のような形にしたのは観阿弥・世阿弥という親子です。小学校でも室町時代の文化の中で学びます。

世阿弥の残した「花伝書（かでんしょ）」の中に「初心 忘るべからず」という言葉があります。この言葉は「初志（物事を始めた頃の気持ちやこころざし）」を忘れるなという意味ではありません。「ものごとを始めた頃のぎこちなさ、未熟さ、みっともなさ」を忘れるなという意味だと言われています。その初心を忘れず、芸道に精進することが大切だと説いています。

うまくいかないくやしさを向上心に変える事ができれば、それは人を伸ばす力になります。

そのようなとき、戒めなければならない3つの言葉があります。「だって」「でも」「どうせ」の3つです。3つともアルファベットのDで始まる言葉（Datte/Demo/Douse）ですから、あわせて3Dと呼びます。うまくいかない時に「だって」と言い訳をしたり、「でも」と他に責任を求めたり、「どうせ」と開き直ったりしているようでは人は伸びません。稽古は自分がすること、自分のためにするものです。未熟なのは人のせいではありません。自分が努力する以外に方法はありません。

うまくいかないことがあったとき、それを人のせいにするのではなく、自分の力に変えていくことができれば、うまくいかないということもまた自分を大きく伸ばす力となります。困難は人を育てるのです。

「くやしい」と言った女子生徒はその後、県の上位で活躍する選手に成長しました。ラッキーと言われた中学校は全国大会の常連校になっていきました。

【読書イベント頑張りました！！】

4週間にわたる読書イベントが終了しました。それぞれの学年で学級の借り出し冊数の目標をクリアできるように取り組んできましたが、最終の4週目、すべての学年のすべての学級で目標をクリアすることができました。このイベントを通して、こどもたちは図書館に出かけて、たくさん本を手にとることができました。いろいろなジャンルや作者の中から自分の1冊は見つかったでしょうか。今度は深く1冊に浸るときです。

羽合小学校 寺谷英則